

講義名	日本事情 A【留学生科目】			授業形態	
担当教員	尾崎 美千代	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

日本を理解するということは、日本語を理解して足りるというのではなく、その背後にある風土、生活習慣、社会的状況、価値観等、日本という国を多角的かつ総合的にながめてはじめて可能となるものです。また、そのような視点を持つことが有意義な留学生活を送る上で必要不可欠です。この授業では、テキストはもちろん、いろいろな資料を読んでききます。そして、異文化での実体験を踏まえながら、学生同志でディスカッションをしたり、調べた内容を発表して、日本という国を理解して行ってほしいと思います。

到達目標

今まで常識と思っていたことや無意識に身に付いた行動様式・思考様式をいったん自分からはぎ取り、その意義や普遍性を逐一問い直したり、一見理不尽と思えるようなことに対して理解しようとする姿勢を持てるようにします。それは、見知らぬ土地で一人で生活する者にとっては、大変な作業かもしれませんが、しかし、日常の細かいことから一つ一つ、自分自身の力で見出せるようになることが、この授業の到達目標です。

提出課題

毎回、異文化での実体験の発表やレポート及びニュース発表を行います。また、日本で興味を持った事柄を詳しく調べて発表し、3000字程度の最終レポートを書きます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各発表に対して、クラス内でのディスカッション及び、質疑応答を行います。

評価の基準

授業参加度 20%
発表 30%
期末レポート 50%

履修にあたっての注意・助言他

日本についてのニュースに常に興味を持ち、新聞を読む習慣を持ってもらいたいです。また、授業で取り上げた事柄について、自主的に興味を持って、調べる態度も持ってほしいです。

教科書

.日本総論 .	尾崎大司他	株式会社クリエイツ	1000	9784887700222
---------	-------	-----------	------	---------------

参考図書

.『留学生のための日本事情入門』（文理閣）NEWS WEB EASY.				
-------------------------------------	--	--	--	--

その他

新聞記事

授業計画

1. 日本語の日常表現
2. 新しい生活
3. 家の回り
4. 安全管理
5. 家
6. 食事
7. アルバイト
8. 発表
9. 国土
10. ライフサイクル
11. 文化
12. 制度
13. 経済と産業
14. 歴史
15. 発表

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="checkbox"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】ニュース発表準備 1時間
【復習】テキスト内にあるタスク 3時間
例：「日本の道路標識を1つあげ、その意味を調べなさい。」
「日本の料理を1つ選んで、その作り方を日本人に聞いて調べなさい。」
「あなたの地域である祭りについて調べなさい。」
「あなたの国において、国政と民意が制度的・現実的にどのような関係にあるか、調べなさい。」
「年表にあなたの国の歴史を書いて年表を完成させなさい。」等

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

自ら感心を持った事柄について、調査し、自分なりの意見をしっかり持てるようにする。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

学生からの疑問・質問に対して、資料提供及び参考意見を述べて、より理解が深まるように話し合いの場を持つようにしたいです。

実務経験の有無及び活用

備考